

第3学年 道徳学習指導案

平成28年6月23日（木）第5校時

- 1 主題名 法やきまりの遵守 内容項目 [C 遵法精神、公德心]
- 2 ねらい 法やきまりの意義を理解するとともに、自らの義務を果たし社会の秩序と規律を高めようとする意欲や態度を育てる。
資料名 「二通の手紙」
(出典 中学生の道徳「かけがえのない きみだから」3年 埼玉県版 学研)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

人間は一人で生きることにはできない。周囲の人々とかかわり合いながら生きている。社会があれば何らかのきまりがある。人間が集まって社会が形成されると、「私」と「私」の利益がぶつかり合って集団のまとまりがなくなり、結局一人一人の願いが実現できないことがある。「法やきまり」は、この集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするために、人間の知恵が生み出したものであることや、社会の秩序と規律を守ることによって、個人の自由が保障されるということを理解することは大切である。無法状態になれば、自由は保障されない。自分の欲望のままに生活することを制限するものとして法を捉え、仕方なく法に従うのは、「守る」ということではない。遵法精神は、公德心によって支えられている。公德心とは、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にする心である。一人一人の日常生活の中で具体的に活かされることで、住みよい社会が実現できる。法やきまりについての意義を十分に認識した上で、生徒一人一人が当事者として社会の秩序と規律を守っていこうとする意欲や態度を育てたい。

指導に当たっては、法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについて自覚を促したい。また、社会の秩序と規律を守ろうとする意欲を育て、日々の実践に結び付けたい。さらに、法やきまりについて他律的な捉え方ではなく自律的な捉え方ができるようにしたい。

(2) 生徒のこれまでの学習状況及び実態について

中学1年生では「傘の下」を教材として、「他人との関わりの中でルールを守ろうとする意欲」、中学2年生では「昼休みの自由」を教材とし、「きまりの意義を理解しようとする態度」を学習してきた。3年生になり、進路決定や最後の行事に向けて自分の役割や責任を果たそうと意識し始めている生徒が多い。

きまりやルール及び法について、自律的に捉え尊重している生徒もいるが、「ルールだから守る」と他律的に捉えていたり、集団で行動していると楽しさを優先してし

まったり、お互いに流されてしまい、ルールを守れないこともある。修学旅行を控えたこの時期に、「法やきまりの遵守」について学習し、きまりの意義や守る意味を学習させることは、集団生活の中でルールを守る大切さに気付かせ、修学旅行でのルール決定などに対して意欲的に臨ませる事につながると考える。

(3) 資料の特質や活用方法について

本資料は、動物園の入園係をしていた元さんが、閉園間際に姉弟を入園させたために解雇処分となったことを元さんの同僚であった佐々木さんが思い出して語るという内容である。

幼い姉弟のためにと思って規則（「入園時間」・「保護者同伴」）を破って入園させたことで、保護者からは「感謝の手紙」そして、職場の上司からは「解雇処分」の通告という二通の手紙を受け取った元さんの姿を通して、法やきまりを守ることの意義について考えさせていく。

本資料は、ややもすると幼い姉弟を思いやる元さんの心情的な部分に共感する生徒が多くなると思われる。優しさゆえに規則を破ってまで入園させた元さんの行為を取り上げるのではなく、あくまで、元さんの行為が規則を逸脱した行為であることをふまえ、法やきまりに対する理解を深めさせることが必要である。そのために、元さんの言動を傍らで見ていた佐々木さんを主人公とし、その目を通して、元さんの生き方から学んだこと（元さんが晴れ晴れとした顔で動物園を辞めたこと）を考えさせることでねらいに迫りたい。また、元さんの言葉が、佐々木さんのその後の生き方にまで大きく影響していることに着眼したい。

補助資料として、姉弟が一連の行動で事故があったとする「もうひとつの一通目の手紙」を用いて、生徒に考えさせることで、規則の重要性や遵法精神の目的などを自覚させる一助とする。

そのために、本時の話合いでは、以下の3つの場面を中心にねらいに迫っていく。

- ① 姉弟のことを考えて動物園に入園させた元さんの行動を支持している佐々木さんの気持ちに共感させる。
- ② 元さんに届いた二通の手紙の内容を知り、佐々木さんの心の有り様をおさえる。「感謝の手紙」・「叱責の手紙」（一通目）「解雇の手紙」（二通目）を準備する。
- ③ 晴れ晴れとした顔で職場を去って行った元さんから、佐々木さんが法やきまりの意義や義務を果たすことの大切さを学んだことに気付かせる。

4 学習指導過程

段階	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ☆評価の観点
導入 (5分)	<p>1 きまりがあつて嫌だと思つたことや、良かったと思つたことを聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p><学習目標> きまりやルールは何のためにあるのだろうか？</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ、発問内容を生徒に伝え、考えさせておく。
展開 (40分)	<p>2 資料を読んで佐々木さんの心情を中心に話し合う。</p> <p>○状況を確認する。 (発問) 佐々木さんはどんな人だと感じるか。</p> <p>○資料の読み聞かせをする。 (資料は、手紙が届く手前まで読む。)</p> <p>(1) 佐々木さんは姉弟を入園させた元さんを見て、どのように考えているだろうか。</p> <p>(補助発問) 佐々木さんは規則のことは考えなかったのだろうか。</p> <hr/> <p>(2) 母親からの手紙を元さんから見せられた佐々木さんはどのように考えただろうか。</p> <p>○「感謝の手紙」を読む。</p> <p>(補助発問)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の状況を確認する。 ・まじめな人 ・優しくない、冷たい ・頭が固い ・姉弟を入園させた元さんの優しさに共感する。 ・姉弟を思いやる気持ちはよいと思う。 ・やはり規則を守らなかったのはいけないと思う。 ・規則は分かるが姉弟のことを考えると入園させたのはよかったと思う。 ・毎日来ている姉弟がかわいそうだし、元さんの考えに賛成だ。 ・姉弟の願いを叶えた元さん 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公を「佐々木さん」と捉え、話合いの柱となる部分に線を引かせる。 ・母親から元さんに届いた手紙を2種類用意する。 「感謝の手紙」 「叱責の手紙」 ・姉弟のことを考え、元さんの行動を支持している佐々木さんの気持ちに共感させる。 ☆思いやり、優しさという視点で入園させたことを考えることができたか。 ・きまりについての話し合いを深めるため、学級を2つに分け、さらに小グループで考えさせる。 ・小グループで話し合ったことを発表させる。 ・規則の大切さを理解しながらも、心情的には元さ

<p>もし、姉弟に事故があったとしても元さんの行為を良いことだといえるか。</p> <p>○元さんがこの後、「解雇通告」を受けたことを話す。</p>	<p>は優しい人だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則は大事だが姉弟のことを考えたら元さんの行動は理解できる。 ・子どもも母親も喜んでくれたのに何で元さんが解雇処分になるのかわからない。 ・母親も元さんに感謝しているのになぜ。 	<p>んの行動に共感している佐々木さんの気持ちを考えさせる。</p> <p>☆納得いかない佐々木さんの気持ちに共感できたか。</p>
<p>○「叱責の手紙」を読む。</p> <p>(補助発問)</p> <p>もし、姉弟が無事に帰ってきていたら、元さんの行為は許されるのか。</p> <p>○元さんがこの後、「解雇通告」を受けたことを話す。</p> <p>○グループを教室に戻し、それぞれの考えを発表する。</p> <p>○教科書で資料の後半を読み聞かせ、母親からもらったのは「感謝の手紙」であったという本筋に戻す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感情に流されて、規則を破ってしまったことはよくない行為だと思う。 ・入園係として、してはいけない行為だった。 ・元さんが入園させなければこんな悲劇は起こらなかったはずだ。 ・解雇処分になってもしかたのない行為だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元さんの行為が規則を逸脱した行為であることに気付かせる。 ☆若い女の子たちを入園させなかった佐々木さんの気持ちに共感できたか。 <p>・生徒が混乱しないように丁寧に説明する。</p>
<p>(3)元さんの行動に共感していた佐々木さんが、それでも若い女の子たちの入園を断ったのはなぜだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の感情だけで規則を破るのはいけないと分かったから。 ・規則を守ることの大切さを元さんから学んだから。 ・規則は守るためにあり、誰がその仕事をしていても変わらない大切なきまりだと考えたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木さんの心情の変化から、きまりを守ることの意義を考えさせる。

	3 本時の学習課題について、感じたことや考えたことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりやルールは、自分だけでなく、皆が楽しく生きるためにある。 ・きまりやルールは自分たちを縛るものではない。 ・なぜ、こんなきまりやルールがあるのか、しっかりと考えることが大切だ。 ・破ってよい規則はひとつもないと納得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず個人で、そして、数人で考えを深める。 ☆感情ときまりを守ることは別であり、きまりを守ることが集団の秩序を守るには必要であることに気付くことができたか。
終末 (5分)	4 別の資料を読み、法やきまりを守ることについて考えを深める。		<ul style="list-style-type: none"> ・大リーガー田口壮選手の話題（新聞記事）を用意しておく。 ・プリントを用意する。法やきまりを守ることについて家族と話し合わせる。(宿題)

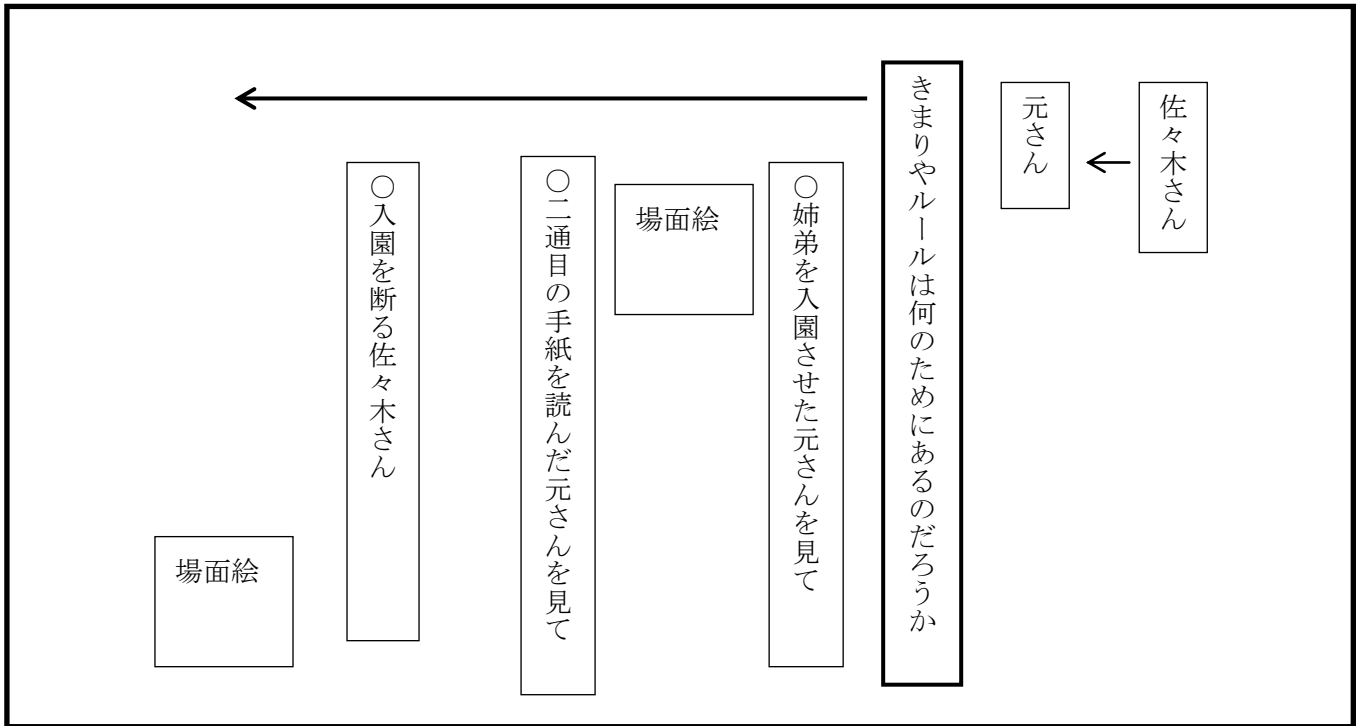
5 他の教育活動等との関連

事前学習	事前にきまりがあつて嫌だと思ったこと、良かったと思ったことを考えさせておく。
道徳の時間	資料名「二通の手紙」 ルールやきまりを守ることの意義を理解し、自らの義務を果たして社会の秩序と規律を高めようとする態度を育てる。
事後学習	「私たちの道徳」の「4 社会に生きる一員として (1) 法やきまりを守り社会で共に生きる」を読み、その部分 (P135) を教室に掲示する。
家庭との連携	本時の授業内容や生徒の感想を学年通信で紹介する。家庭でも「私たちの道徳」P134～145を活用し話題にしてもらおう。また、話題になったことを学年通信で紹介する。
事後指導	学習した道徳的価値を理解し、生活の中で活かしたかアンケートをとる。(道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を検証する。)

6 評価の観点

- ・ルールやきまりの意義を考える過程で、社会の秩序についても自分の考えをもつことができたか。(発言)
- ・世の中は管理するだけでなく、情の部分も大切だが、むやみに情に流されると社会全体を混乱させる事態にもなりかねないことに気付いたか。(発言)

7 板書計画



8 資料吟味表

ね ら い；ルールやきまりは自分たちの生活や秩序を守るためがあると気づき、そのために自らの義務を果たし、社会の秩序と規律を高めようとする意欲や態度を育てる。
 [C 遵法精神、公德心]

授業者の意図；市営動物園の入園係をしていた元さんは規則を破って姉弟を入園させてしまったことで、保護者からは「感謝の手紙」、上司からは「解雇処分」の通告という2通の手紙を受け取った元さんの姿から法やきまりを守ることの意義について考えさせたい。なお、「もうひとつの一通目の手紙」を用意し、元さんの行為が規則を逸脱した行為であることを考える手立てとした。

中心発問；きまりやルールは何のためにあるのだろうか。

意 図；佐々木さんが元さんの姿を見て、きまりやルールを守るとは、皆が安心・安全に生活するために必要なことであり、社会秩序を維持するのに大切なことであると気付かせる。

・ 母親からの「感謝の手紙」と「叱責の手紙」を読んで、規則を守ることを考える。

・ 上司から「解雇処分」通告の手紙を受け取る元さんが「晴れ晴れとした顔」をした理由を考える。

意図；規則の大切さを理解しながらも、姉弟のことを考えて情動的に元さんの行為に共感している佐々木さんの気持ちを考えさせる。また、母親の手紙から入園させたことがどうであったかを考える。

意図；結果がよければ規則を破ってもよいのではない。状況や、情に流されることはあってはならない。解雇処分となったが元さんが自分の甘さと規則の重さに改めて気付いた心の有り様を考える。

他者理解

価値理解

人間理解

人間理解

価値理解

・ 姉弟のことを思い規則を破って入園させる元さんの心情を理解させ共感させる。

・ 元さんの行為に共感していた佐々木さんが若い女の子たちの入園を断ったことから、きまりやルールの真の意味を考えさせる。

・ 意図；規則の大切さは分かっていた元さんだったが、姉弟のことを考え入園させた。その元さんの行為に共感している佐々木さんの気持ちを考える。

・ 意図；きまりやルールはよりよい生活をするためにあり、社会の秩序を維持する基本であることに気づき、今後の生き方に活かそうとする態度の深まりを図る。

人間理解

他者理解

自己理解

価値理解